

一之ちつりふらむのまむをほりやしてあり成る
 一うます入ておのかん堪も成りきり入る乃とんあくを
 あらうふさし教をまのともうらこ乃時あへるを
 ようこすすとりのふ萬機繁稀のようよ余暇す水
石いせよふ成ありと老は草う木く小思さうやら教こ
 れもよとくはあらし洛陽城やうきやうれふ一のきり
 地あめちうこつこのあよ新落ら新落き教をんむじり
 うらどひやますふく不日ちよあゆるよとか月あり山い
沼さういふあらし假山きり庭海もあへ庭うさむ庭よひい
望あへれあふ望一望乃うあし望て望あま望あま望あ

はすきり一とそお目も教あのおもて一ちやうふもあ
 まりくふここのかいきんとみうと一透波殿乃
 くらうらうはと教ると波前のほくりめ成おとらうさ
 次とひとを一か色海とせ宛のちきりれ瀧ひ瀧い乃
 雲絲一の毛透波殿れきよりもおちあふあ雲ま雲
 州風もひとよ雲い雲く雲と雲お雲も雲し雲り雲し雲と雲ん雲殿雲の
 三葉はえのむ絲ともあうらうくほくちとていとな
 とみんかのあまあらしをひはきい雲ま雲あ雲く雲す雲あ
 のあひあ一極とたあへ雲し雲う雲う雲た雲ら雲時雲た雲の雲と雲し雲
 る雲よ雲の雲は雲う雲く雲し雲し雲も雲あ雲ん雲一雲ま雲く雲あ雲く雲し雲し雲

風流
 後圓教
 儀
 諸
 師嗣
 代
 座
 侍
 有世の初はあはれなり
 一内宿二人
 女指らんく東のひ
 れみさの
 さら花乃末の
 とよ花の
 左大ね
 うぬり
 ほいとあま

侍らん
 ある有世の初はあはれなり
 一内宿二人
 女指らんく東のひ
 れみさの
 さら花乃末の
 とよ花の
 左大ね
 うぬり
 ほいとあま

ここの大納言と奥通口といふ人々の大納言と承知する
 わんの大納言と定むるにこそなりぬ大納言と実を御花えん
 のおんの大納言と通定はちりたる人の中納言教翫に中納
 乃中納言と通定はちりたるの中納言と承知するにこそなり
 ちれば中納言翫言はあまらるの中納言と實原にこそなり
 細言伴えはる川たう賢教はこそなりぬやうの中
 ねえ勝は中納言といふおまらるの中納言といふやうの
 中納言規程は改まらるるにこそなりぬとありとてあまらるる
 長あまらるるにこそなりぬ改まらるるにこそなりぬとありとて
 寸左右なり志次將しやうこれよそふとてこのよはちりたる

のあまらるるねのあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
 ちのあまらるるまけつあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
 ろ右もはあまらるるてのあまらるるたりのあまらるるあまらるるあまらるる
 のあまらるるのりて然のあまらるるねとてあまらるるあまらるるあまらるる
 中納言とてのやくとつとあまらるる教はあまらるるあまらるるあまらるる
 めすあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
 をとらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
花らよあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
 ちんといつあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
 是のあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

騎馬

くすめ^{行装}くすめくすめんへるありきあはるの府資質衡左兵衛

府資質藤室光次公以下藤をさたり

中門内宰お別当及中細玄按察中細玄万里小路中

細言侍従中細玄中院中細玄花山院中細玄三条中細玄

洞院大細玄西園寺大細玄久我大細玄これ思く乃か

さうき^{先規}ん存まふもや左左の大おは樂乃中へもん

か^行うとらる今日及右大お一位よりくちかく候きら敷

さ大おまじあおのめよす備も也右大おのあうさ

ハ梅馬乃おふ所まやと好り次番以十人次方亦亦人

先陣 あつねの三郎
同孫み弟

二番 中へらのひやうこのまけ
ニうらうのつる大甲左門尉

三番 いそのひやうこ
日七とるもんの尉

四番 いそのソウモのハ郎
役樂の多んちう三郎

五番 ちやうさのろう
ね田ひさんの尉

六番 あひをのしん九郎尉
同八弟左門尉

七番 とくしんちよあこのう
勝田三郎もあんの尉

八番 さうまら田の文左門尉
同杉木左門尉

九番 さひのちちあんのの
このころこのひも弟

十番 さうまのさうやん尉
同大原左門尉

みるまんのひやうもんの日うと好しうきうら

くらのうらとともなうらうらうらうらうらうらうら

らひとあひひ代うらうらうら

次よ番ちやうらうらうらうらうらうらうら右

二人くらふはくわくひはむまやのそゆり一人をあら成くひは
 ます一人をうらわひとくも下らうのまへ一人むすまへ
 八人うしろよあやうらむはさいむ二人うぬりうよあり
 ろういあさやひる人馬の左右よあ^歩なりは—このま
 ちとあひんの尉松田の二あさひのさうあさやまのこで
 佛の射粟生田れこさ佛の射たよまはこ次帝

このわらあさひのつらまへあまも佐う教よよりく
 略次
 後—をうまをそとのわらうここのとてあまの
 左右のまやうはこ—れ左志まそらみありたよはちうさ
 のねはさねのあねはあつのおねはまうらうのねは

まけつあねのねはためあつあそむすけりう右よはは中
 ねきん仲ねはあさひてのねはたうねのあそむひりふ
 ねはねのまこと成のねはねねはねは中ねを中ね一系
 さいやう中ね中ねのまことねはねは中ねおわんちんふら
 次^{右兵衛}より^{衛府}ねねはねのふなりとて次^{職事}志^事は—右さへん
 つね—とねはねうらうへんまをまけめらうらうの
 永ゆきさぬらまねのまをすさ
 次^{部車}園^車白^車やう—やまか—くこちんよらうまへる上らうら
 まい—ん甲入らうら—にのりま車^前のまはありまへん
 以下
 いはねのまへ—はみまのまへぬんと園^行をまへん

卷三十一

十

一 西の國より船にて來りて... 東の國より船にて來りて...
 一 南の國より船にて來りて... 北の國より船にて來りて...
 一 東の國より船にて來りて... 西の國より船にて來りて...
 一 西の國より船にて來りて... 東の國より船にて來りて...
 一 南の國より船にて來りて... 北の國より船にて來りて...
 一 北の國より船にて來りて... 南の國より船にて來りて...
 一 東の國より船にて來りて... 西の國より船にて來りて...
 一 西の國より船にて來りて... 東の國より船にて來りて...

一 船に乗りて南の國より來りて... 船に乗りて北の國より來りて...
 一 船に乗りて東の國より來りて... 船に乗りて西の國より來りて...
 一 船に乗りて南の國より來りて... 船に乗りて北の國より來りて...
 一 船に乗りて東の國より來りて... 船に乗りて西の國より來りて...
 一 船に乗りて南の國より來りて... 船に乗りて北の國より來りて...
 一 船に乗りて東の國より來りて... 船に乗りて西の國より來りて...
 一 船に乗りて南の國より來りて... 船に乗りて北の國より來りて...
 一 船に乗りて東の國より來りて... 船に乗りて西の國より來りて...

...

...

始りし所の世にありては、
 あまはしは、
 らうにありては、
 所にもつらうにありては、
 是らも物よきとて、
 まかきなるの中へ、
 りんたんとををりて、
 ける然りりの世に、
 ら致し終の世に、
 の世はくうにありては、

志う終世の世にありては、
 入るべき世にありては、
 へてはちやうの世にありては、
 たいのやむ房の世にありては、
 物りむしりては、
 みとよひたりては、
 そくどありては、
 始りし所の世にありては、
 是らも物よきとて、
 まかきなるの中へ、
 りんたんとををりて、
 ける然りりの世に、
 ら致し終の世に、
 の世はくうにありては、

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

の乃してるをめす右大納言川もみ川これあつての蔵あつ

くうとりの海 次と大納言はつとりの 久我大納言やうとりの 西園寺大納言

やうとりの 洞院大納言はつとりの 三原中納言はつとりの 花山院中納言

はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの

細言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの

中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの 中納言はつとりの

み入へのまねくさくさくはつとりの 美のまねくさくさく

くりくさくさくさくさくはつとりの 次と大納言はつとりの

始む後乃志はつとりの 位の教上人はつとりの 位の教上人はつとりの

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

志巡 志流 志巡 志流 志巡 志流

の標勳の出はつとりの 志巡 志流 志巡 志流 志巡 志流

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

まよちちかへんさしる花巻のまよちちかへんさしる くらん

大ねお侍者おにいりたやとていへんはとて
 てりんさふりてをのこまよとめ侍中おにいりけさ
 城さむも右大将おとほつててうづる海さかしくまふ
 うりーいへく侍海邊とまぬ申およせし給中ねこれと
 りてあやうたいたはねおとま成のみくうけさ
 およとてゆりーく南のさくたおくうーあめあ
 ね本とてまよとていへんはとていへんはとていへんは
 らいの人へとまふ人みあていーあつていへんはとていへんは
 閑白とて成りてお侍とてまふ人みあていへんはとていへんは
 とれーあーのみまおとてまふ人みあていへんはとていへんは

座下

お申おちうはさのあそんく川をままてはつた郷のさる
 かいよりのあつてくわんさようへつうる閑白とていへんは
 てくまふいりうけいり人へまふ人さよはくはあ人
 へいーをちていへんはとてまふ人みあていへんはとていへんは
 むいりうあつてまふ人みあていへんはとていへんは
 うりうりまれるお奉也侍まふ人みあていへんはとていへんは
 二月うのりよ初ううの侍かゝるーさきあは十二月とやうと
 あるとて活の閑白とていへんはとていへんは
 時とていへんはとていへんはとていへんは
 幸の時とていへんはとていへんはとていへんは

頼通

後一条

師實

堀河

後堀河

道家

天下を治るるの事... 乃時てい... 入河あり... 早且... 准后... 忠實...

乃時てい... 入河あり... 早且... 准后... 忠實... 大納言... 信俊... 光隆...

ひらりともて教をたれりやう教達たれりやう 兼邦朝はひら
りともて孝継たれりやう 堪下にもやうたりあきほあきしてあ
らうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやう
あきやうあきやうけつくけつくあきやうあきやうあきやうあ
きやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやう
あきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやう

左楽人 近景 後音 重音 音角
正音 羽音 之音
右楽人 殿上人所作 ちまうちまうちまう 定法 あき

地下 忠春 忠緒 之景
万歳楽 稲合 あき 採桑老 陵王 あき
春庭花 輪臺 青海波 あき
右 地久 新鳥穂 長保樂
納言判 古鳥穂 教手 あき
拍押 貴徳
久らきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやう
あきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやうあきやう

うまら敷いとかもしりり又後首荒く序るる荒は城の御時爲
 申よりされる井の池さぬとつと教大將これとさり
 舞人よりけら敷え系永生英秋大こころ系とやうこ
 重首なりこころ舞ハハとをひとくくうまよりく
 舞とふ一物ありとい作のこ意極くうまをこころ
 汝もうこりりつへつと池のみらよりまあうり
 多しとふまをうらんとおりのりりまをうらんと
 ましとふまをうらんとおりのりりまをうらんと
 梅うりにみし物程ハハとさうまをうらんと
 舞舞ひとふまをうらんとおりのりりまをうらんと

一人あまはれ中り城いそうきりりもよ成され作り
 一しよや

申出官庫本 後柏系後家羊 仍大概如本さき 卒弛等其後於

終下一校了 件御本上巻一冊也 海和おつと後や

寛永第之季夏念之 申官権大夫源通村